

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991900091		
法人名	一社)だんだん会		
事業所名	グループホームわいわい白州		
所在地	北杜市白州町白須1023		
自己評価作成日	平成29年11月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	平成29年12月20日(水曜日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①開放型の家。日中はいつも鍵を開けておく ②計画的な献立のない”その日の気分の食事” ③よくしゃべり、よく笑い、よく歩き、よく働き、よく眠る ④「お客様型」ではなく、「自分たちのことは自分たちで」という支援型 ⑤地域住民のみなさんとのつながりを大切にする ⑥経営中心(営利目的)の運営ではなく、「専門家による高い質のケア」を追求

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、水田や果樹園が広がる里山の中にあり、2階建て2ユニットの事業所である。ふんだんに使った木材が暖かく柔らかな雰囲気をつくっており、随所に工夫が感じられる建物である。認知症であっても自由に笑顔で自分らしく生活できることを目標に、専門的な支援体制を築いている。一人ひとりの力に合わせ買い物、食事作り、洗濯などをプロ意識を持った職員と一緒にいき、あくまで「介護ではなくその人に合った支援」を心掛けている。スケジュールも決めず、食事の献立も利用者のその時々気分、希望に沿った自由な生活環境であるよう、職員は高い意識を持ってマニュアルや業務基準に頼らない支援に努めている。また、地域とのつながりをも重視しており、地域交流スペースも用意している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわいわい白州**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のご支援、月例ミーティングを通じて、立ち返るべき理念の確認、課題について方向性について話し合いの場を持っている。	日々のご支援、月例ミーティングを通じて、立ち返るべき理念の確認、課題について方向性について話し合いの場を持っている。	尊厳の保持、介護ではなく生活支援の立場、豊かな共同生活の場となるよう、誰でも利用しやすいような配慮、グループホームを地域住民に開放、人生の最期の段階で暮らせるような運営、を理念として事務所内に掲示している。実践に活かせるよう月2回の職員ミーティングでも話し合い、意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域組織に加入し情報交換を行なっている。また、日々の買い物、美容室、運営推進介護を通しての情報交換など行っている。	地域組織に加入し情報交換を行なっている。また、日々の買い物、美容室、運営推進介護を通しての情報交換など行っている。	自治会組織である‘区’に加入し区民として日頃の付き合いを持っている。買い物や美容院など地元の店舗を利用するなど地域とつながりながら暮らせるよう取り組んでいる。地域の老人クラブの協力でホーム内に畑を作り、野菜を栽培をするなど地域の人々との交流を図り、積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の買い物など認知症の方が出歩くことが、認知症の人の理解や周知になっているのではないかと。毎週火曜日にホーム内にて認知症カフェを行なっている。	日々の買い物など認知症の方が出歩くことが、認知症の人の理解や周知になっているのではないかと。毎週火曜日にホーム内にて認知症カフェを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域のイベントなどの情報や、ホームに対するご意見などいただき、地域に少しづつなじみ溶け込むための情報交換の場となっている。	地域のイベントなどの情報や、ホームに対するご意見などいただき、地域に少しづつなじみ溶け込むための情報交換の場となっている。	2か月に1回開催し、事業所からの報告の後、家族懇談会からの意見への対応、経過報告やメンバーからの要望や意見交換を行うなど、活発な会議となっている。出された様々な問題には直ぐに取り組み運営に反映している。また、対応や経過報告も行い次のステップにつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新しい法人、事業所のため日頃より連絡を心がけ関係を構築している途中である。	新しい法人、事業所のため日頃より連絡を心がけ関係を構築している途中である。	事業所の実情や、認知症である利用者の支援の現場の実態を知ってもらえるよう努めている。運営上の金銭の問題を相談したり、市担当者からの入居希望の相談を受けるなど、折に触れ積極的に連携を図り、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者ご本人の立場に立ち、起こった問題、起こりうる問題を様々な角度から考え、身体拘束にならないよう議論の場を持っている。	入居者ご本人の立場に立ち、起こった問題、起こりうる問題を様々な角度から考え、身体拘束にならないよう議論の場を持っている。	月2回の職員ミーティングの中で振り返りと話し合いを行い、利用者一人ひとりの背景を考え、対応方法を作り出している。玄関の施錠はせず、利用者が出かけたいときに出かけられるよう支援している。スピーチロックについても職員間で振り返り、共有認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一つの関わりが、意図せずとも虐待になりえることを考慮し、日々の関わりや振り返りの場を持つようにしている。	一つの関わりが、意図せずとも虐待になりえることを考慮し、日々の関わりや振り返りの場を持つようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に様々な経歴の方がおり、その方々を通して実際使っている制度、使う可能性のある制度について学ぶ機会をもっている。	入居者に様々な経歴の方がおり、その方々を通して実際使っている制度、使う可能性のある制度について学ぶ機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談から徹底した自立支援を行なう場所であること。それによる可能性とリスクがあることをお伝えする時間を持ち、ご本人、ご家族に納得いただくようにしている。	入居前の面談から徹底した自立支援を行なう場所であること。それによる可能性とリスクがあることをお伝えする時間を持ち、ご本人、ご家族に納得いただくようにしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわいわい白州**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者・家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推会議や家族懇談会の機会を持ち運営に対する意見交換の場を持っている。また苦情などに関しては契約書に盛り込んでいる。スムーズな意見交換ができるよう信頼関係を構築している途中である。	運営推会議や家族懇談会の機会を持ち運営に対する意見交換の場を持っている。また苦情などに関しては契約書に盛り込んでいる。スムーズな意見交換ができるよう信頼関係を構築している途中である。	面会時は、日頃の様子を伝え意見・要望を汲み取る機会と考え対応している。3月の開所以来2回の家族懇談会を持ち意見・要望を聞いた。事業所前の道路の安全確保、玄関チャイム、栄養摂取のチェック、ボランティアの受け入れなどの要望が出され、意見は直ぐに対応し、運営の改善につなげる努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場を設け意見交換を行なっている。	会議の場を設け意見交換を行なっている。	理事長・管理者とのヒヤリングの機会を設けて職員意見・要望を聞いている。研修に参加したい、定期的なヒヤリングを望む等の要望があり、理事会にかけ改善に努力している。日常の業務に関する意見・気づきは日々聞いて職員会議で話し合い、日常の中で職員のスキルアップが出来るよう意識し対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の事情を踏まえ、平等な職場環境づくりに取り組んでいる。	スタッフ個々の事情を踏まえ、平等な職場環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修含め研修の機会を持ち力量アップに努めている	外部研修含め研修の機会を持ち力量アップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北杜市における連絡会に参加し、少しずつ交流の機会を作っている。	北杜市における連絡会に参加し、少しずつ交流の機会を作っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の能力、意向、家族との関係、協力体制など、実現可能なことを探り、なじむ場づくり安心できる環境づくりに努めている。	本人の能力、意向、家族との関係、協力体制など、実現可能なことを探り、なじむ場づくり安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の状況をみながらあくまで認知症ケアの専門職として対応に努めている。	ご本人の状況をみながらあくまで認知症ケアの専門職として対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療職含めチームで見極めを行ない、適切な対応を検討している。	医療職含めチームで見極めを行ない、適切な対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ないことがあったとしても、年長者への敬意を持ち関わり続け関係をつなげていくよう努力している。	出来ないことがあったとしても、年長者への敬意を持ち関わり続け関係をつなげていくよう努力している。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわいわい白州

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフだからできる関わり、家族にしかできない関わりを考え、互いの持ち味を活かした関わりをすることによって入居者の喜びに変えていく	スタッフだからできる関わり、家族にしかできない関わりを考え、互いの持ち味を活かした関わりをすることによって入居者の喜びに変えていく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の半数が移住者であり、古くからのなじみというより、新しい関係を作ってきた方々にとどのような支援が適切なのかが悩みながら支援にあたっている。	入居者の半数が移住者であり、古くからのなじみというより、新しい関係を作ってきた方々にとどのような支援が適切なのかが悩みながら支援にあたっている。	利用者一人一人の生活背景を把握し、それを支援につなげることに努めている。入居時のアセスメントを基に、その後の暮らしの中で得る情報を記録し、職員間で共有している。生活背景が大きく異なる利用者が多く、具体的な支援を模索しているところである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームの和の中での立ち位置、個性を發揮していただきながら、それぞれが主役になるような支援をし支えあう取り組みを行なっている。	ホームの和の中での立ち位置、個性を發揮していただきながら、それぞれが主役になるような支援をし支えあう取り組みを行なっている。		
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必ずしもここが終の棲家ではないことを説明しており、自宅に引き取ること、ほかの施設に移ることも可能であること伝えて体制を整えている。	必ずしもここが終の棲家ではないことを説明しており、自宅に引き取ること、ほかの施設に移ることも可能であること伝えて体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位で入居されている方はいない。日々の関わりの中でここで暮らしてもいいと思っていただき、その時したいことを実現するよう努めている	本人本位で入居されている方はいない。日々の関わりの中でここで暮らしてもいいと思っていただき、その時したいことを実現するよう努めている	その人の、思いや希望の把握に努め、より多面的な支援に取り組んでいる。一人一人のその日のペースを大事にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している。その都度、その場で'その人らしい暮らしを支える'ためにケアするんだと構えるのではなく、生き方そのものを支援しようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族にご記入いただき、把握している。	入居時にご家族にご記入いただき、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の暮らしとの違い、入居してからは昨日との違い、さっきとの違いなど状況の変化を察知し把握するよう努めている。	入居前の暮らしとの違い、入居してからは昨日との違い、さっきとの違いなど状況の変化を察知し把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と一番長く接するスタッフを中心に、専門性を持ったアセスメントを行ない、医療や家族、地域との資源を使ったより良い計画づくりを行なっている。	本人と一番長く接するスタッフを中心に、専門性を持ったアセスメントを行ない、医療や家族、地域との資源を使ったより良い計画づくりを行なっている。	入居時に本人、家族、関係者から情報を得てプランを作成する。その後、2週毎の職員ミーティングで、アセスメントを行い、柔軟に介護計画を修正し、3か月で見直しを行っている。家族や常勤の看護師、医師、歯科医、理学療法士などの意見を聞くなど、介護計画を作るプロセスに重きを置いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフトを活用し記録の共有を行なっている。質に関しては、会議の中で振り返り向上を図っている。	介護ソフトを活用し記録の共有を行なっている。質に関しては、会議の中で振り返り向上を図っている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわいわい白州**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護事業を運動し医療面に関しては柔軟に対応している。	訪問看護事業を運動し医療面に関しては柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域組織に参加させていただき、情報交換行ない地域で生きることを実践できている。	地域組織に参加させていただき、情報交換行ない地域で生きることを実践できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本はこれまでの主治医を推奨し、困った場合にはこちらでご紹介できる体制を作っている。	基本はこれまでの主治医を推奨し、困った場合にはこちらでご紹介できる体制を作っている。	本人・家族の希望する医療機関で診療を受けている。月2回の協力医による訪問診療を受けている利用者や往診してもらっている利用者もいる。他にこれまでのかかりつけ医で受診している利用者もいるが、この場合は家族が受診支援している。医師には書面にて状態を知らせ、情報は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、受診や往診、その場での処置に対応している。	訪問看護と連携し、受診や往診、その場での処置に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご本人を中心に家族、入院先、退院後の主治医と運動体制づくりを行なっている。	ご本人を中心に家族、入院先、退院後の主治医と運動体制づくりを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について契約時に文章で説明すると同時に、実際に体調変化があった場合には様々な可能性について提示できるよう体制を作っている	終末期の在り方について契約時に文章で説明すると同時に、実際に体調変化があった場合には様々な可能性について提示できるよう体制を作っている	看取りの指針は作成してあり、入居時、家族に確認をしている。主治医、地域看護センターとの医療連携体制は整えてあり、どのような状況にも対応できるよう体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しそれに沿って行っている	マニュアルを作成しそれに沿って行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しそれに沿って行っている	マニュアルを作成しそれに沿って行っている	開所間もなく、まだ災害に対する訓練は行っていない。地域の住民と防災について話し合う機会があり、その際、近隣の住宅団地住民と災害時には協力し合うことを取り決めている。	災害が起こった時、職員が冷静に行動し利用者も一緒に全員が速やかに安全に避難できるよう、その方法を身に付けていくこと、また、様々な災害の場面で適切に対応できるよう繰り返しの訓練を重ねることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりだけでなく、月例の会議の中で振り返りを行なっている	日々の関わりだけでなく、月例の会議の中で振り返りを行なっている	事業所理念に掲げている内容について、職員ミーティングで振り返り、話し合いを重ね意識を高めている。日々の支援の中での言葉かけ、外出時での職員の態度などにも配慮している。書類や個人ファイルは事務室にて管理し、また、面会の来客は家族の了解を得るなどプライバシーへの配慮をしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわいわい白州

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スケジュールを決めず、～したい、～したくないなど、自己決定がなされるよう体制を作っている。	スケジュールを決めず、～したい、～したくないなど、自己決定がなされるよう体制を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールを決めず、～したい、～したくないなど、自己決定がなされるよう体制を作っている。	スケジュールを決めず、～したい、～したくないなど、自己決定がなされるよう体制を作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思を尊重し、化粧をしたい、スカートをはきたい、ひげをそりたい、ヘアスタイルを整えたいなど、できることとしていただき、したいけどできないことはご支援している。	ご本人の意思を尊重し、化粧をしたい、スカートをはきたい、ひげをそりたい、ヘアスタイルを整えたいなど、できることとしていただき、したいけどできないことはご支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スケジュールやメニューを前もって決めず、その時に食べたいものをみんなで決め、買い物に行き、作って食べ、片づけている。	スケジュールやメニューを前もって決めず、その時に食べたいものをみんなで決め、買い物に行き、作って食べ、片づけている。	各ユニットごとに献立を決め、買い物、調理、配膳、片づけを職員と利用者と一緒にしている。献立は決めてなく「その日の気分の食事」を楽しんでいる。外食も計画的には決めてないが月に3～4回は出かけている。職員体制、天候を考慮し、行き先やメニューも利用者の希望に沿って支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の状態を把握し、必要に応じ対応している。体調が変化が続く場合には医療との連携、プランの変更を行なっている。	その日の状態を把握し、必要に応じ対応している。体調が変化が続く場合には医療との連携、プランの変更を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ行なっている。訪問歯科と連携し口腔内の状況の把握を行なっている。	必要に応じ行なっている。訪問歯科と連携し口腔内の状況の把握を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	有する能力を把握し、その能力に応じた対応を行なっている。	有する能力を把握し、その能力に応じた対応を行なっている。	排泄パターンを把握するため排泄チェック表を記入しているが不要な人は記録していない。トイレ誘導のタイミングや排泄用具は、その都度評価し見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事で食べたいものを食べたとしても、一品提案させていただくなど工夫している。	日々の食事で食べたいものを食べたとしても、一品提案させていただくなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で決めず、ご本人の気持ちに沿った対応を行なっている。	職員の都合で決めず、ご本人の気持ちに沿った対応を行なっている。	入浴は利用者の希望に沿って支援している。入浴を嫌がる場合は声かけのタイミングや誘い方を工夫し、無理強いしないよう本人の意志を優先している。本人の希望で夜間の入浴にも対応している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわいわい白州

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	よく食べ、よく働き、よく眠ることを大切に、必要以上に薬に頼らないよう支援している。	よく食べ、よく働き、よく眠ることを大切に、必要以上に薬に頼らないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適切な対応ができるよう訪問薬剤と連携し対応している。	適切な対応ができるよう訪問薬剤と連携し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者＝楽しませてもらう側にするのではなく、それぞれの得意なことを活かし、スタッフは日々のことでも楽しみに変える支援をしている。	入居者＝楽しませてもらう側にするのではなく、それぞれの得意なことを活かし、スタッフは日々のことでも楽しみに変える支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食事するためには買い物に行かなくてはならず、日常的に外出する仕組みになっている。日帰り温泉などの外出はあるが、泊りがけなど特別な外出に関しては今後検討していく。	食事するためには買い物に行かなくてはならず、日常的に外出する仕組みになっている。日帰り温泉などの外出はあるが、泊りがけなど特別な外出に関しては今後検討していく。	外出は普通の暮らしの中でごく当たり前と考えており、本人本位の支援をしている。雨天でない限り毎日洗濯物を干したり、庭先での外気浴や散歩を行い、また、毎日の食事の買い物にも出かけている。ドライブ、外食、お茶、などと頻りに外出の機会がある。お花見や紅葉狩りなど季節を楽しむ外出やその日の利用者の気分を汲み取って個別の支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的な買い物で、日常にお金を使う仕組みになっている。	日常的な買い物で、日常にお金を使う仕組みになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をもらうことはあるが、ほかについてはできていない。	手紙をもらうことはあるが、ほかについてはできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の"家"としての感覚を大切に、時には自分が掃除をしなくてはと思うような支援をしている。排泄の失敗があった場合は本人の汚れはもちろん、速やかにトイレの汚れ、においの対処をするようにしている。	入居者の"家"としての感覚を大切に、時には自分が掃除をしなくてはと思うような支援をしている。排泄の失敗があった場合は本人の汚れはもちろん、速やかにトイレの汚れ、においの対処をするようにしている。	入居者が一番長く過ごすリビングからデッキ、庭、畑へと動線が整備されており、洗濯物を干したり、外気浴が自然にできる環境が整っている。建物全体が木の温もりで包まれている。寒冷地であるため床暖房が使われているが、2階廊下部分は畳敷きにしてあり、冷たさを和らげる工夫をしている。廊下の突き当りはソファが用意され少人数での会話を楽しめるスペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはみんなで集う場所、トイレと個人使う場所、お風呂は基本個人だが場合によっては複数で入ることも可能にしている。	リビングはみんなで集う場所、トイレと個人使う場所、お風呂は基本個人だが場合によっては複数で入ることも可能にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本、空間のみ提供し、居室に関してはご本人が家族になじみのあるものを持参いただいている。	基本、空間のみ提供し、居室に関してはご本人が家族になじみのあるものを持参いただいている。	クーラーのみが備え付けで、他は自由で一人一人の好みを活かした居室に整えられている。家族との写真や手芸品、位牌など、その人が「自分の部屋」と感じることができるよう、配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関やトイレ、風呂、階段など建物の構造上のリスクや台所におけるやけどや刃物のリスクなど支援を行なう上での把握し対応している。	玄関やトイレ、風呂、階段など建物の構造上のリスクや台所におけるやけどや刃物のリスクなど支援を行なう上での把握し対応している。		